

千葉市美術館企画展「Nerhol 水平線を捲る」を開催します
～国内外で評価される現代アーティストデュオ「Nerhol」による美術館初の個展～

千葉市美術館では、企画展「Nerhol ^{ネルホル} 水平線^{めく}を捲る」を以下のとおり開催しますので、お知らせします。

本展は、写真を重ねて彫刻を施す作品の独自性が国内外で評価されているアーティストデュオ「Nerhol」の表現活動の歩みを紹介する美術館初の大規模個展となり、千葉市をテーマとした最新作も発表されます。

開催に先立ちまして、9月5日（木）14：00から記者の皆様への説明会を実施しますので、ぜひ取材にお越しください。

1 会期

令和6年9月6日（金）～11月4日（月・休）

休室日 9月9日（月）、24日（火）、10月7日（月）、21日（月）

※10月7日（月）は全館休館

2 会場

千葉市美術館（中央区中央3-10-8）

3 主催

千葉市美術館、朝日新聞社

4 ポイント

◆現代美術で最も注目されるアーティストデュオ「Nerhol」の大規模個展、美術館で初開催

Nerhol は、グラフィックデザイナーの田中義久氏と彫刻家の飯田竜太氏により2007年に結成されました。2012年に発表された、人物を数分間撮影し、出力された200枚のカットを重ね、彫刻を施したポートレートシリーズで大きな注目を集め、近年でも太宰府天満宮宝物殿（福岡）やレオノーラ・キャリントン美術館（メキシコ）をはじめ、国内外で精力的に作品発表を続けています。本展は、長年の活動とこれまで制作されてきた数々の重要作や未発表作を、アーティスト独自の視点によって再構成する公立美術館で初となる大規模個展です。これまでの制作を網羅的に鑑賞することのできる初めての機会となり、Nerhol の作品の多様性を知る機会となるでしょう。

◆千葉市をテーマとした最新作を発表、千葉市美術館でしか体験できない空間に

紙やその原料となる植物は、紙と平面的構成によるグラフィックデザインを行う田中氏と、紙や文字を素材とする彫刻家の飯田氏にとって重要なモチーフの一つです。本展では、千葉市の花「オオガハス」を原料とした和紙を用い、千葉市指定文化財である美術館1階のさや堂ホールに大規模なインスタレーションを展開します。また、Nerhol の作品とともに二人が選んだ美術館のコレクションも展示し、美術館だけでしか体験できない空間の創出を試みます。

◆NFT の利用、建築家と協働した会場にも注目

二人の日々の対話を端緒に、協働して行われる Nerhol の活動は、外部へと拡張しながら、これまでさまざまなコラボレーションを生み出してきました。本展では、現代美術家、起業家であるスタートバーン株式会社代表取締役の施井泰平氏と対話を重ね、同社が提供する NFT を展覧会に実装、来場者はスタンプラリー形式でアートとデジタルテクノロジーの融合を体験できます。また、建築家の西澤徹夫氏に協力を仰ぎ、緻密に構成された展示計画も見どころです。

※NFT とは、Non-Fungible Token の略で、所有証明書付きのデジタルデータのこと。デジタル上のアート作品の信頼性と真正性を担保するもの。

5 観覧料

一般 1, 200 円 (960 円)、大学生 700 円 (560 円)

※ 小・中学生、高校生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者 1 人は無料

※ () 内は前売券、市内在住 65 歳以上の方の料金

※ 前売券は、ローソンチケット (Lコード 34662)、セブンイレブン (セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて 9 月 5 日まで販売 (9 月 6 日以降は当日券販売)

※ ナイトミュージアム割引 金・土曜日の 18:00 以降は観覧料半額

6 関連イベント

アーティストトーク、担当学芸員によるショートレクチャー、ワークショップなどを開催

「Nerhol 水平線を捲る」披露説明会 開催概要

1 日時

9 月 5 日 (木) 14:00 から

2 場所

千葉市美術館 8 階展示室

3 内容

展覧会や主な展示作品の見所について担当学芸員から説明します。当日は作家の Nerhol も来場予定です。

<本件に関するお問い合わせ先>

千葉市美術館 担当学芸員 森 啓輔、庄子 真汀

広報担当 磯野 愛

電話 043-221-2311

FAX 043-221-2316

E-Mail isono@ccma-net.jp